

# 平成23年度 本会助成事業の活用希望組合を募集！

本会では、平成23年度に本会の助成事業を希望される会員組合等を下記のとおり募集いたします。

助成事業を希望される組合は、**9月17日(金)**までに中央会本部・各支所へお申し込みください。

なお、下記内容は平成22年度事業計画に基づき掲載しており、事業名や助成金額等が変更になる場合もございます。ご了承ください。

## 【Ⅰ】 組合が抱える課題等の解決を支援する事業

事業名	事業内容	補助額・自己負担額等
1 組合活力向上事業	<p>組合及び組合員企業が抱えている課題等について、解決を図り、組合活力の向上に結びつけるため、必要に応じて専門家とともに集中的な支援を行います。</p> <p><b>【平成22年度 対象組合】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋田県スポーツ用品商業協</li> <li>・ 秋田県酒造協</li> <li>・ 大館ケアサポート(企)</li> <li>・ 秋田管工事業協</li> <li>・ 設計チーム木協</li> <li>・ 秋田県山林種苗協</li> <li>・ 秋田県印刷(工)</li> <li>・ 協秋田市民市場</li> <li>・ 協秋田古紙回収協会</li> <li>・ 協横手卸センター</li> <li>・ 秋田県自動車車体整備協</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補助率 2/3</li> <li>・ 自己負担 1/3</li> <li>・ 事業費目安 300千円 (内100千円程度が実施組合等負担)</li> </ul>
	<p>小企業者組合が組織の強化や事業の発展を目的に、研修会等を実施する場合に助成します。</p> <p>※ 平成22年度まで小企業者組合を対象に実施していた「組合研究集会」助成事業が平成23年度は廃止となります。このため代替事業として新設する予定です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補助率 2/3</li> <li>・ 自己負担 1/3</li> <li>・ 事業費目安 105千円 (内35千円程度が実施組合等負担)</li> </ul>

## 【Ⅱ】 人材養成を支援する事業

事業名	事業内容	補助額・自己負担額等
2 組合青年部研究会事業	<p>若手経営者、後継者で構成される青年部が研修を実施する場合に助成します。</p> <p><b>【平成22年度 対象組合】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋田県自動車整備(商工)青年部会</li> <li>・ 鹿角市花輪新町(商振)青年部</li> <li>・ 秋田県葬祭業協青年部</li> <li>・ 秋田県自動車解体処理協青年部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補助率 2/3</li> <li>・ 自己負担 1/3</li> <li>・ 事業費目安 300千円以内 (内100千円程度が実施組合等負担)</li> </ul>

### 【Ⅲ】 経営革新やビジョンづくりを支援する事業

事業名	事業内容	補助額・自己負担額等
<p><b>3 中小企業組合等活路開拓事業</b> (全国中央会事業)</p>	<p>中小企業者が経済的・社会的環境の変化に対応するため、新たな活路の開拓等、単独では解決困難な諸問題、その他中小企業の発展に寄与するテーマ等について、組合等がこれを改善するための事業に対し支援を行います。</p> <p><b>〔事業テーマ〕</b></p> <p>①<b>中小企業の経営基盤の強化</b> 例：技術・機能の継承や後継者の育成、労働問題への対処、取引慣行の是正、事業の構造改善及び新たな事業分野への進出、新事業分野へ進出するために開発した新技術の需要喚起を図るための展示会等への出展、情報化の促進等</p> <p>②<b>地域振興</b> 例：地域の中心市街地の活性化、産地・地場産業の振興、伝統技術・技能の承継、農商工等連携による新商品開発及び開発した新商品の販路拡大のための展示会等への出展等</p> <p>③<b>社会的要請への対応</b> 例：CO<sub>2</sub>の削減を図る新製品の販路拡大のための展示会等への出展、規制緩和等による経営環境の変化への対処、エネルギー環境問題への対処、BCP(緊急時企業存続計画)の対応・検討等、企業行動の適正化等</p> <p>④<b>その他、中小企業が対応を迫られている問題</b> 例：創業者支援等</p> <p><b>〔事業実施方法〕</b> 次の各事業を適宜組み合わせで行います。</p> <p>① 調査事業                      ② 研究事業 ③ ビジョン作成事業          ④ 成果普及講習会開催事業 ⑤ 試作・改造事業              ⑥ 実験・実用化試験事業 ⑦ 試供・求評事業              ⑧ 導入・改善事業 ⑨ 展示会等出展事業 ⑩ その他本事業の実施について必要とする事業</p>	<p>・補助率 6/10以内 ・自己負担 4/10 ・補助金限度額 12,175千円 (ただし、「展示会等出展事業」は1,200千円)</p>

※ 事業の組立てや進め方、あるいは掲載した事業以外で取り組みたい内容がございましたら、どんなご相談にでも応じますので、中央会本部・各支所にお気軽にご相談ください。

【申し込み・お問い合わせ先】

- 事業振興部 商業振興課・工業振興課 (☎ 018-863-8701)
- 大館支所 (☎ 0186-43-1644)
- 横手支所 (☎ 0182-32-0891)

## ／ 実習生受入企業紹介 ／

## 新卒者就職応援プロジェクト事業を実施中です！

本会では、中小企業が平成22年3月卒業の大学生・高校生などを実習生として受け入れインターンシップを実施する「新卒者就職応援プロジェクト事業」に取り組んでいます。（事業の詳細については、本会「商工あきた」4月号に掲載しています。）

今般、実習生の受入企業である「株式会社桑原」と「秋田印刷製本株式会社」をご紹介します。

## 株式会社桑原（卸売業・秋田市）

株式会社桑原（代表取締役会長 桑原功）は、包装資材・包装機械・物流資材を中心として幅広い商品を扱っています。今年は創業50年を迎え、マークやキャラクターをリニューアルしたほか、初めてのテレビコマーシャルを社員の出演で作成し、現在放送中です。

同社では、7月から1名の実習生を受け入れています。取締役総務部長の金俊博氏にお話を伺いました。

注文を受けた商品を卸す際には、ピッキング（倉庫から商品を選び出す）し、梱包しますが、実習生には、そのピッキングを指導しています。倉庫はスペースが広く3階まであり、1万種類以上の商品があるので、選び出すのは大変な作業です。しかし、実習生は覚えが早く、これまで1日も休まず熱心に実習しています。

3ヶ月間は倉庫で作業の仕方や商品名を覚えてもらい、その後は、受発注データの入力や、伝票の出力、電話の応対に進む予定です。お客様から電話で注文を受けるには商品の知識が必要です。種類が多いので、商品の名前と実物とが全て一致しないと注文を受けることも出荷することもできません。それが一番難しいと思います。

実習生が最初に来たとき、「挨拶ができない」というのが一番強い印象でした。実習生に限らず、最近の新卒者に

感じることは、礼儀作法等が身に付いていないということです。家庭での躰が薄れてきているように感じます。

実習生にも、最初は挨拶の仕方から教えました。倉庫での仕事は主にお母さんくらいの年代の方々がされているので、色々な話を聞き勉強になっていると思います。仕事を覚える他に、様々な方と接したり話をする中で学びながら、今後も各作業の習得に取り組んでくれることを期待しています。



## 【実習生のコメント】

1カ月を過ぎ、作業にはだいぶ慣れてきました。最初は大変でしたが、今は、やり甲斐を感じています。この後の実習も頑張っていきたいです。

## 秋田印刷製本株式会社（印刷業・秋田市）

秋田印刷製本（代表取締役社長 大門一平）は、フォーム印刷、商業印刷等のほか、各種の新商品開発も行っています。また、今年2月に農工商等連携事業計画の認定を受け、贈答用パッケージ入り「あきたこまち」の販売も行っています。

同社では、7月から2名の実習生を受け入れています。常務取締役の泉谷元久氏にお話を伺いました。

実習生には、受注データの入力や電話対応、印刷機の操作などを教えています。当初、面接に来た時と比べ、表情が明るくなり、ハキハキとした話し方変わってきました。今は、意欲を持って実習しています。

当社では、新規採用をする際の面接は厳しくしています。それは、途中で辞められると、企業としては痛手だからです。そういう意味では、この「新卒者就職応援プロジェクト事業」は有り難い制度です。何ヶ月かを通して、実習生は「この企業に合うかどうか」、企業は「一緒に長く仕事をしてもらえるかどうか」を実習期間中に見極めることができます。

今は、技術の伝承ができ、加えて管理能力をも持つ人材を必要としています。営業でも、注文を受けるだけでなく、デザインについてお客様の相談に乗ることが求められます。ですから、「自分はこれができる」という自分の「売り」を持っていないと、採用は難しくなっています。

企業では、一から教えている余裕はないのが実状です。

実習生の今後については、本人の意向を聞きながら、3カ月を過ぎたときに判断します。当社に入社してくれるようになったら、それまでの実習とは意識も違ってくるので、そこからは一層深い協力体制を組んでいきたいと考え、期待しています。

新卒者には、ハングリーであることを望みます。地を這ってでも頑張っていける人材になってほしい。企業は、一緒になって汗をかき、会社を良くして行こうという気持ちを持っている人を求めています。



## 【実習生のコメント】

会社では、印刷物を作るだけでなく色々な仕事があることを知りました。毎日、新しいことを覚えられるので楽しいです。実習に参加して良かったです。